

中学・高校生～

2017年3月 no. 62

2017

# よんでもネット \* 春号

発行□茅ヶ崎市立図書館／協力□茅ヶ崎図書館子どもの本の会

## もしも地球が ひとつのリンゴだったら

デビッド・J・スミス文 スティーブ・アダムス 絵 千葉茂樹 訳



小峰書店〔40ス〕

大きすぎて想像するのもむずかしいことでも  
こんなふうにちぢめるとよくわかる。

“もしも太陽系の惑星をボールの大きさにちぢめたら…”  
水星は卓球のボール。金星はテニスボール。  
地球は野球ボール。火星はゴルフボール。  
木星はバランスボール。-----

“もしも35億年の歴史を1時間にちぢめたら…”  
“もしも地球上の水がコップ100杯だとしたら…”

ちぢめてみたら、びっくりするような結果がまっている！

## 木と日本人

監修・文 ゆのきようこ

樹木画 長谷川 哲雄

- ① 材木 - 丸太と板
  - ② 樹皮と枝・つる
  - ③ 葉や花、実と種
- 〔65エ〕

日本は森の多い国。昔から日本人は、木をさまざまに利用してきた。“材木”で家や橋、船をつくり、“樹皮”は衣服や和紙の原料にし、“葉や花”を愛で、“実や種”は油をしぼって明かりにしたり、栄養豊富な食料としてきた。  
暮らしに豊かさをもたらしてくれる、木の恵み。  
木は「衣・食・住」の生活すべてに関わってきたのだ。





講談社 [913ト]

## 天と地の方程式 1～3

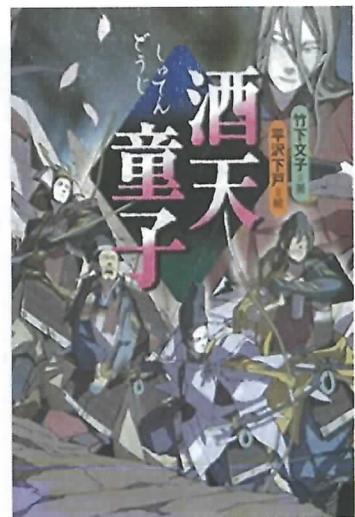
富安陽子 五十嵐大介 画

中学2年になる田代有礼は「くるすの丘に来い」と猿に言われる夢を見た。その直後に引っ越しが決まり、新設の「来るすの丘学園」に通うことになる。同級生はたったの3人。うちひとりは、とんでもなく数学ができる、とてつもない馬鹿とうわさのQ。有礼はQとともに異空間にとじこめられてしまう。開発のせいで、黄泉の国とこの世を隔てる封印の扉が開かれてしまったのだ。

## 酒天童子 竹下文子著 平沢下戸 絵

平安時代の京の都。公家の姫君がひとりまたひとりと消えてしまった。陰陽師の安部晴明は、丹波国大江山の鬼、酒天童子のしわざだという。源頼光と藤原保昌は、帝から、討ちしづめるように命ぜられる。従うのは頼光の郎党の四天王。

表題作の他、「土蜘蛛」「鬼同丸」など、都をおびやかす物の怪に立ちむかう頼光たちの物語を複数の古典を読みとき 現代に伝える。



偕成社 [913タ]



新潮社 [913.6エ]

## 本屋さんのダイアナ

柚木 麻子

ダイアナという名前は、漢字で「大穴」と書く。そのせいで 小学生の頃から からかわれてきたが、同級生の神崎彩子にはげまされ、友情を深めていく。ところが、ささいな いきちかいから 絶交。

16歳で自分を出産した母、行方知れずの父。幼い時から金色に染められた髪。たくさんの疑問をかかえながら ダイアナは成長していく。

ある日、アルバイト先の書店に父が来た --- 。